いきいき元気推進事業

東海市しあわせ村（保健福祉センター）健康推進課

東海市では、「いきいき元気推進事業」を市長3期目の公約としてスタート。企画部に「いきいき元気推進担当」を置き、各課の事業等を把握するとともに、横断的な「いきいき元気推進委員会」を発足。市の健康課題や健康の概念を伝え、議論を重ね、健康増進計画とは別に横串の「健康・生きがい連携推進プラン」を策定。健康応援ステーション等の環境整備や、トマトde健康プロジェクトといった活動を展開し、健康寿命延伸などの成果を上げている。

概要・体制

・市長公約を機に企画部内に「いきいき元気推進担当」（現在は健康推進課内）を設置。市長インタビューや職員81人によるミーティングを実施した上、職員42人による横断的な「いきいき元気推進委員会」を組織。各課の事業や計画等を横串にした「健康・生きがい連携推進プラン」を策定。各課へのレクチャーを介し、連携の意義を伝えた。ウォーキングペース体感ゾーンのある公園の整備、産業振興ビジョンへの健康経営の考え方の追加、企業との協働等を実現できた。懸案だった平均寿命や医療費などに改善が見られた。

背景・課題

・平均寿命が県下下位、高齢化が急速に進展、医療費が高齢者ほど高い、糖尿病など生活習慣病患者が多い、とくに人工透析患者が県平均より多い、などの健康課題を抱えている。
・各課の事業や施設、計画、関係団体等の資源などの連携が十分ではない。

市長公約

地域の活力を維持・増進させるためにも、健康でいきいきとした地域を形成

■運動応援メニュー
健診結果等をもとにウォーキングのペースや筋トレメニュー等を提供。

運動ステーション
専門家が支援。

公園・緑道
ウォーキングペース体感ゾーン設置。（花と緑の推進課と連携）

＊ 三師会と協定を結び、持病がある人にも医療機関、薬局が健康づくりを支援する。

■食生活応援メニュー
同様に、適したエネルギー、ご飯・野菜・塩分等の目安を提供。

食生活ステーション
「いきいき元気メニュー」（800kcal以下、野菜量等の認定基準）を32店舗で提供。

■産業振興ビジョン
商工労政課の産業振興ビジョンに健康経営の考え方。

働く世代の健康づくり
「いきいき元気メニュー」を社員食堂で提供したり、保健師を採用する事業所が出てきた。

■企業との連携
トマトde健康プロジェクト
地元発祥のカゴメ株式会社と連携。トマトde健康レシピコンテスト、「トマトジュースの出る蛇口」、「いきいき元気メニュー」の基準をクリアしたトマト料理の「とまと記念館」での提供など。

健康・生きがい連携推進プラン

推進項目＝①健康を意識するきっかけづくり、②心と体が喜ぶ食生活、③体を動かすことを生活のリズムに、④人と人がつながる場づくり、⑤心豊かに Let's enjoy

各課の事業・計画に横串を刺す

健康増進計画 ― 事業
食育推進計画 ― 事業
都市計画マスタープラン ― 事業
環境基本計画 ― 事業
●計画 ― 事業 …

次長7人、課長級5人、主幹6人、副主幹以下17人、保健師2人　など

土木課	都市整備課	水道管理課	花と緑の推進課	中心街整備事務所	監査委員事務局	市民協働課	収納課	市民病院	総務法制課	
区画整理課	子育て支援課	下水道課	いきいき元気推進委員				情報課	防災安全課	秘書課	
健康推進課	社会福祉課	国保課	市民窓口課	体育課	消防署	企画政策課	職員課	青少年センター	社会教育課	学校教育課

事務局＝いきいき元気推進担当（企画部内）　＊課名・職名は設置当時のもの

保健センターの連携機能・役割

・統括保健師（当時、課長級）が、健康・生きがいづくり重視の市長公約にもとづき、「いきいき元気推進担当」担当者となった。
・平均寿命や特定健診受診率等のデータにもとづく市の健康課題の抽出の作業やその説明、健康概念、健康と環境整備等の関係などのレクチャーをいきいき元気推進担当者と保健師などが行い、「なぜ健康のために連携が必要か？」との他課職員からの疑問に繰り返し答えることにより、ヘルスプロモーション的な考え方を広く伝えることができた。
・各課へのヒアリングにより、活用できる資源等を把握し、具体的な活用のアイデアを提案した。
・トマトde健康プロジェクトで、企業城下町の社会資源であるカゴメ株式会社と連携したことなどにより、イベント等への若い層の参加が増加。「いきいき元気メニュー」を提供する「とまと記念館」の運営は、高齢者の生きがいづくりにも寄与している。

効果・成果

・健康寿命は、男性78.55歳、女性82.77歳（平成24年度）から、男性79.78歳、女性83.13歳（29年度）に改善。健康づくりの取り組みをしている人の割合は、49.9%から57.2%へ改善。
・施設や環境が健康づくりに取り組みやすいと感じる人の割合は59.6%から65.2%へ改善。
・平均寿命は、男性78.4歳、女性85.4歳（17年）から男性81.1歳、女性86.8歳（27年）へ改善
・1人当たり国保医療費の県内順位は29位（約27万円）から20位（約32万円）へ改善。人工透析10万対患者数も20.7人（県平均19.8人）から22.9人（県平均23.4人）と県平均より低減。

ポイント

●市長公約を好機とした、●ほぼ全課の事業や計画、資源を把握、●横串を指す横断的な計画を策定、●市の健康課題とともに、健康の概念や環境整備の重要性、ヘルスプロモーションの考え方を伝授、●部局を俯瞰できる部長級保健師の存在

いきいき元気推進事業
東海市しあわせ村（保健福祉センター）健康推進課（連携体制構築に向けたプロセス）

Ⓐ 俯瞰的立場の職員

俯瞰的立場の職員の存在

・**「地域活力の維持・増進のためにも健康でいきいきとした地域社会の形成、生きがいをもって暮らせる生活環境の整備が必要」という市長公約が契機**となった。

⓪ 位置についてヨーイ

・自治体経営効率の面から**連携が課題**となっていた。

② 根拠を集める

・平均寿命が県下下位、高齢化が急速に進展、医療費が高齢者ほど高い、糖尿病など生活習慣病患者が多い。

⑥ 育てる、促す

・当初、各課は健康のための連携に懐疑的だったが、委員会コアメンバーで健康概念等のグループワークを重ね、意識統一した上でレクチャーしたことで、「納得し、その気になった」と言う。**課長等とともに、議員にも説明できたため、考え方がヘルスプロモーション的になった。**
・健診結果をもとに運動応援メニューを提供し、運動指導が受けられる**「運動ステーション」**、いきいき元気メニューを提供する**「食生活ステーション」**等を設置し、**健康づくりの環境を整備。**
・また、若い層のカバー率を上げる企業等との関わりのため、産業部門との連携も強化した。

⓪ 位置についてヨーイ → ① 風をつかむ → ② 根拠を集める → ③ 仲間をつくる → ④ 協議組織をつくる → ⑤ ツールをつくる → ⑥ 育てる、促す → ⑦ 評価・フィードバック

① 風をつかむ

・**市長公約**で、地域活力を維持増進させるためにも、健康と生きがいをもって暮らせる地域の形成、生活環境の整備が必要とされた。
・健康分野だけでなく、都市基盤、生涯学習、スポーツ等の**多分野の連携、社会資源の活用の指示**が出た。

③ 仲間をつくる

・市長から、一から考えるよう指示。
・そこで、市長インタビューや職員81人によるミーティングを実施。各課の事業、施設、計画等を共有し、考え方を整理した。

④ 協議組織をつくる

・ミーティング参加者を中心に職員42人による**「いきいき元気推進委員会」を発足。**
・各課の事業や計画、施設、市民活動等を含む社会資源を連携する仕組みをつくり、推進する**「5つの基本項目」を整理。**
・そして、**「委員会」が各課に市の健康課題と方針を説明。**議論を重ね、メルマガでも共有して平成22年に**横串の「健康・生きがい推進連携プラン」を策定**した。

⑦ 評価・フィードバックする

・健康づくりの取り組みをしている人の割合は49.9%（24年度）から57.2%（29年度）へ、施設や環境が健康づくりに取り組みやすいと感じている人の割合は59.6%から65.2%へ、1人当たり国保医療費県内順位は29位から20位へそれぞれ改善。人工透析10万対患者数は20.7人（県平均19.8人）から22.9人（23.4人）と県平均より減少。

Ⓑ 人材育成の意識

人材育成の意識

・職員ミーティングや健康概念等を検討するグループワークで意識を統一した「委員会」メンバーによる**「健康・生きがい推進連携プラン」の説明の機会などを活かし、健康課題の改善に資する環境整備に関する理解を促進**した。